

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 図書館書庫改修事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県図書館 管理調整係 電話番号：058-275-5111(内291)

E-mail：c21803@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,660 千円 (前年度予算額： 15,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	15,000	0	0	0	0	0	0	13,500	1,500
要求額	11,660	0	0	0	0	0	0	0	11,660
決定額	11,660	0	0	0	0	0	0	0	11,660

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県図書館の運営方針「資料の収集・保存」「県内市町村図書館等との連携」に基づき、課題解決型の図書館を目指すとともに、市町村図書館との役割分担を明確にし、収集方針に沿って厳選した資料収集を行っている。

毎年増加する蔵書に対し、収蔵量の限界が近づいており、当初は閉架書庫の一部を集密書架に入れ替え、収蔵能力を確保する計画であったが、令和4年度の設計業務の中で耐荷重不足により、計画していた集密書架を設置することが困難であることが判明したため、既存の建物や敷地に関するあらゆる制約を整理し、収蔵能力を確保するための方策を調査・検討し、基本計画を作成する。

(2) 事業内容

令和5年度 基本計画作成
令和6年度 実施設計
令和7年度 施工、図書資料の移動・配架等

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担 10/10

貴重資料の長期に渡る保全のため必要であり、県の中核図書館としての役割を担うため県負担は妥当である。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事委託料	11,660	基本計画作成
合計	11,660	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

県有施設中長期保全計画

(2) 国・他県の状況

【都道府県図書館の収蔵能力確保対策】

集密書庫の導入（21県）、館内スペースの書庫転用（16県）、書庫の増設（12県）、敷地外の外部書庫（8県）

(3) 後年度の財政負担

令和6年度：実施設計、令和7年度：工事ほか

(4) 事業主体及びその妥当性

岐阜県図書館は年間約23万人に利用され、県民の課題解決や生涯学習を支える教育施設である。

資料保存センター機能を備えることが県の中核図書館としての重要な役割である。保存された資料は、県内図書館の共通財産として、原則として永久に保存し、相互利用される。県内図書館全体のサービスの振興ならびに将来に亘る県民の利用に供するためにも、資料の収蔵量を確保する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和5年度に基本計画作成、令和6年度に実施設計、令和7年度に施工し、収蔵能力を確保する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

図書館施設の整備であり、指標は設定できない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和3年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	<p>毎年増加する蔵書に対し、収蔵量の限界が近づいている。 資料保存センター機能を備えることは県の中核図書館としての重要な役割であり、保存された資料は、県内図書館の共通財産として、原則として永久に保存し、相互利用される。県内図書館全体のサービスの振興ならびに将来に亘る県民の利用に供するためにも、資料の収蔵量を確保する必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 現状の書庫では耐荷重が不足するため、集密書架に入れ替えることは困難。書庫に転用可能な場所はなく、既存の建物、敷地に関するあらゆる制約を整理し、収蔵能力を確保するための方策を調査・検討する必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 令和6年度は実施設計を発注し、令和7年度工事着手を目指す。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】